

## 序章

世界は“サキュバス”と呼ばれる女系悪魔によって、女はその眷属に化され、男はされるがままに精を絞りとられる存在となった。

サキュバスらは己の欲望のまま酒池肉林を極め、次第に支配構造を組織化していった。

女王を頂点とし、女王の邪淫水を強く分け与えられたサキュバスがより強大な力を持った幹部となっていく。

人間を捨てた彼女たちは半永久的な美貌と生命を謳歌し、ただひたすらにオトコをむさぼり続ける。搾られた精は幹部を経て女王に届けられ、女王によって邪淫水に変えられふたたび一族の美と命を維持することになる。

この墮落した循環によって、サキュバス族らはもはや止められることも顧みることもない、完全なる悪として世界を墮としていった。

しかし。

突如、サキュバス女らを昇天撃沈していくオトコらが現れた。

オトコらは悪女をイかし殺せる正義の力を持ち、「制裁＝バスター」として各地を恐怖から解放していった。

いつしか彼らは“サキュバスバスター”と呼ばれるようになる…

これからの物語はとある空間で、サキュバスたちがその魔性を現し始めたころの話である。



暗闇の中、少年が目覚める…



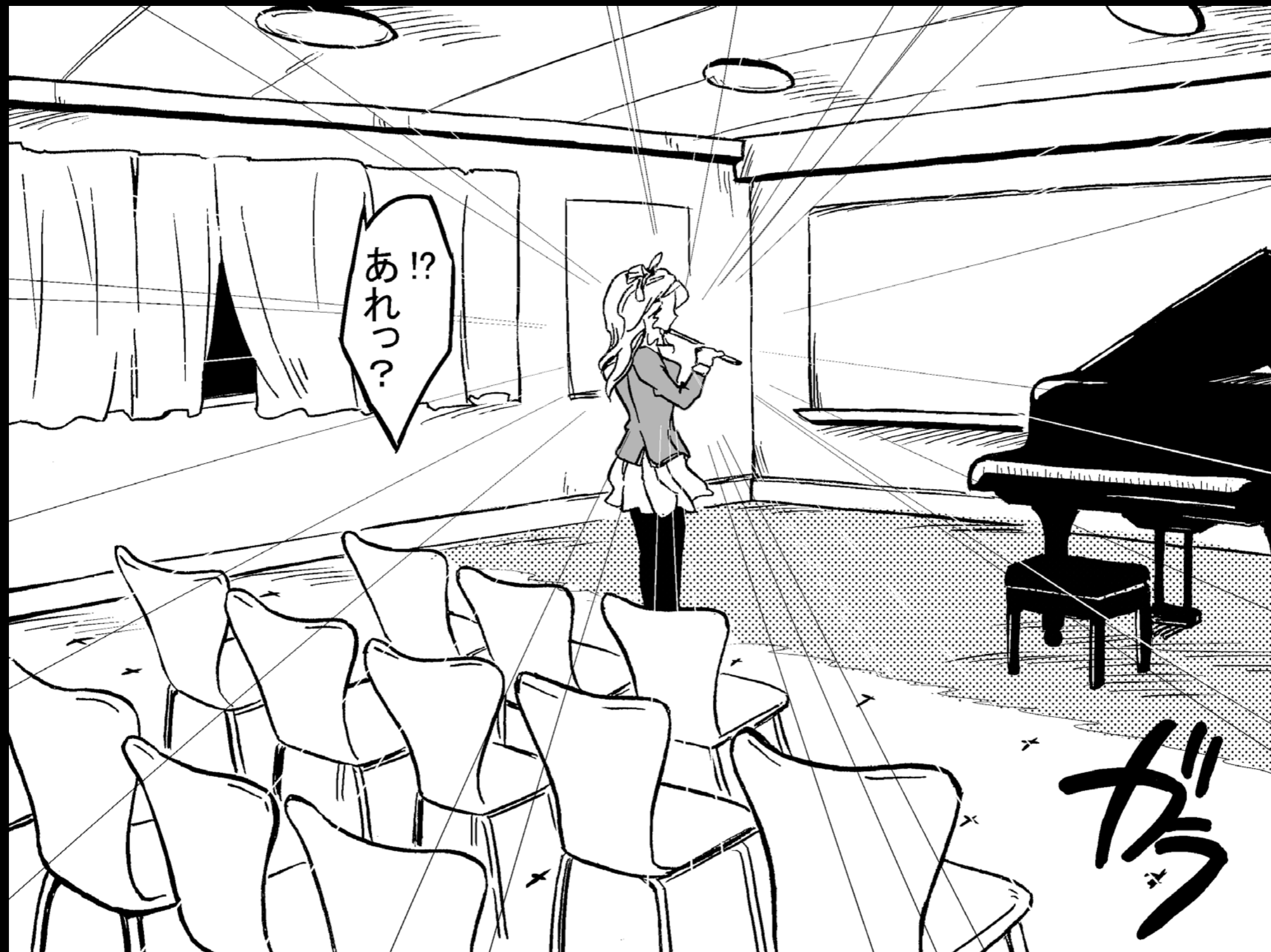
まだ自分のおかれた状況を理解できないでいる少年。

起き上がり、手探りで空間をたしかめながら、歩を進め始める…



少年は、ここがいつもの通いなれた黄泉媛学園の校舎だと理解する。でもどうしてこんな深い時間に、自分がひとり倒れていたのか…

しばらく進むと、かすかな楽器の音色を聴く。闇の中、その美しい旋律をたどっていくと少年は自分が音楽室の方へ向かっていることに気づく。



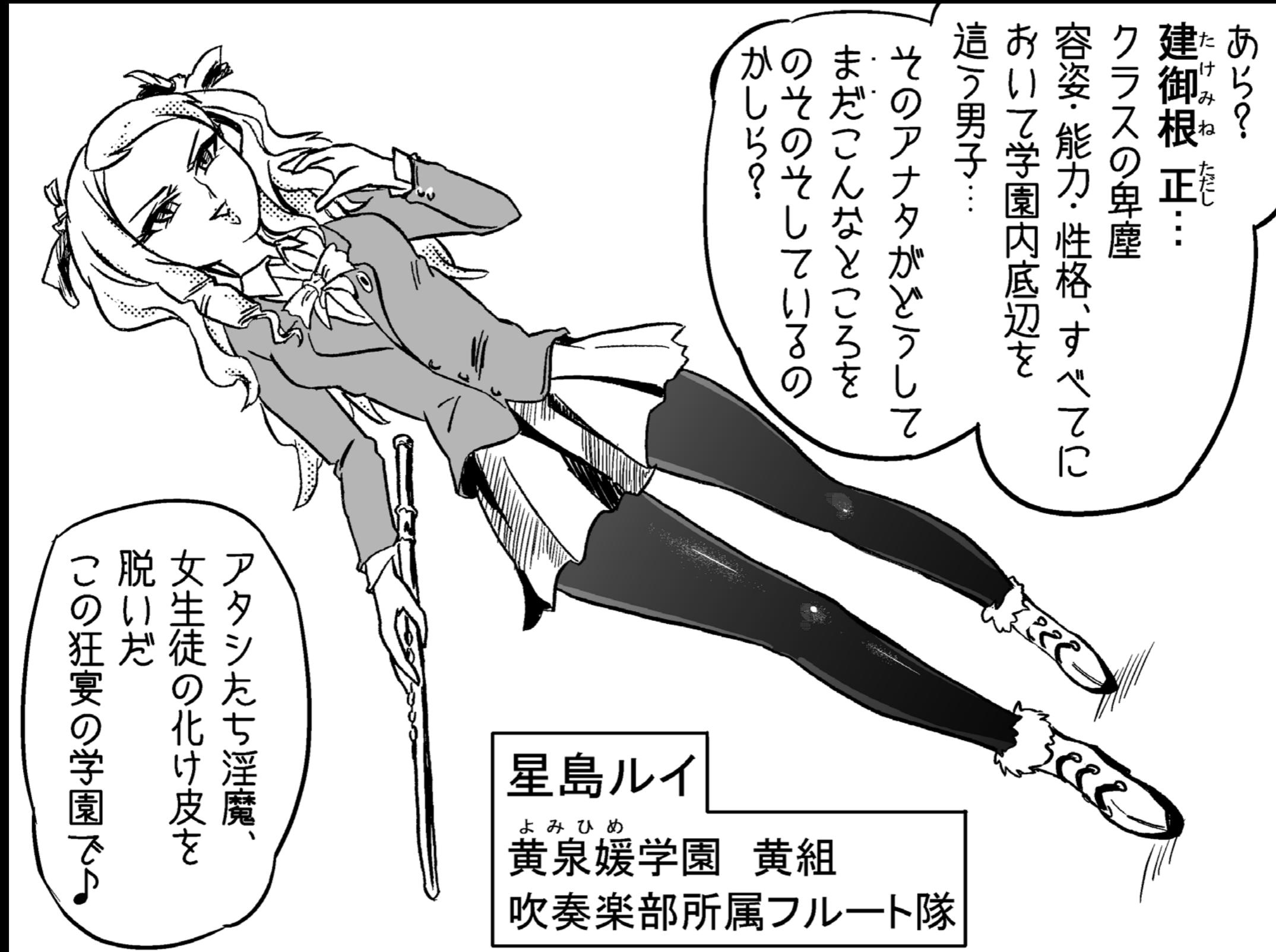
夜の済んだ空気になめらかに乗る楽器の音色。

暗闇の中、その唯一つの光明にいざなわれるように 明かりの灯る音楽室の扉をあけると、教室の真ん中にすらっと立ちフルートを奏でる女生徒の姿を見つける。



そこで悠然とフルートを奏でていたのは、星島さんと呼ばれた少年の同級生。

状況を理解できず戸惑いの色を隠せない少年とは対照的に、全てを知っているかのような態度で少年をゆっくりと睥睨する美少女。



あら？  
建御根正…  
クラスの卑塵  
容姿・能力・性格、すべてに  
おいて学園内底辺を  
這う男子…  
そのアナタがどうして  
まだこんなところを  
のそのそしているの  
かしら？

アタシたち淫魔、  
女生徒の化け皮を  
脱いだ  
この狂宴の学園で♪

星島ルイ  
よみひめ  
黄泉媛学園 黄組  
吹奏楽部所属フルート隊

少年の名は建御根 正 (たけみね ただし)  
少女の名は星島ルイ (ほしじま るい)

悠然と近づいてくる彼女が得意気に話す内容は、建御根にはまったく理解することができない。 淫…、魔…だって…？



建御根正と星島ルイの通うこの黄泉媛学園… それは、学び舎とは仮の姿で、淫魔たちが女生徒に化け 男子生徒の性的発育を促し、精マナを醸成させる実験の場であり狩猟搾精の場であった…

そして今夜、学園はその真なる姿を明かしたのである。





日常を他の男子同様に疑うことなく送っていた男子生徒・建御根には、星島ルイが得意げに言い放った言葉を呑みこむことは困難だ。

茫然と混乱。頭をめぐる疑問がそのまま口をつく。

質問？  
あなたごときがこのアタシに  
モノを訊くことすら、  
もはやおこがましいのですわ。

アナタたちこの学園の男子たちは、  
アタシたち女子サキュバスに精マナを  
献上するためだけに  
性徴発育させられてきた存在に過ぎなくてよ？

ふふふ… 建御根？  
それにアナタと私の間には  
私の命にアナタは  
絶対に逆らわず服従する  
という私契が  
あったのではなくて？

跪きなさい。  
屈しなさい。

お舐めなさい。

学園の正体とともに、戒律により男子たちの前で抑え隠さねばならなかった淫魔としての本性。

しかしその禁は解かれた。星島ルイの高慢なる邪淫が建御根を蔑む。そして、星島ルイと建御根にある私契とは…



言われるがまま突きつけられた御足を舐める。

星島ルイが人でなく淫魔だったとしても それまでの彼女であったにせよ、建御根は  
そうしたはずだ。

支配欲と権力欲を火照らせ、悦に浸るお嬢様。



フフッ… そういえば、  
私が指揮を務めた合唱祭を、  
声変わりを始めたアナタが  
台無しにしてくれたときに、  
こうして跪かせましたわね。

そう。そうやって  
平伏して跪いてなさい。  
それが私たち淫魔を前にした  
人間男子のただしい  
お姿なのですわ♪

昨日までの「日常」の学園生活でも、お嬢様然と居丈高にふるまってきた星島ルイであるが、抑制していた淫魔としての性をようやく解放できる今、目の前の卑小な男子に傲岸な欲情を弾けさせる。

ふたりの関係は合唱祭後のランチに始まる。陰湿な記憶が甦ってくる…

